

授業で

デジタル地図帳を活用しよう！ 取材編

## 3、4年の地図帳入門期にこそ レイヤー切り替えを活用しよう！

『楽しく学ぶ 小学生の地図帳』指導者用デジタル教科書（教材）  
（以下、デジタル地図帳）をお使いになったことがありますか？  
もっと多くの先生方にデジタル地図帳をご活用いただくために、  
今回は、実際にデジタル地図帳を活用されている授業の様子をご紹介します。

今回訪れた学校 成城学園初等学校

指導の先生 澤口 舜 先生

単元名 4年「わたしたちの東京都～地形と土地の使い方～」

東京都世田谷区にある成城学園初等学校では、児童は3年生から1人1台のiPadを持ち、6年生までの4年間継続して使っています。社会科の授業では、授業支援クラウドサービス「スクールタクト」で準備した資料やワークシートなどを共有しながら進めています。

澤口 舜先生が受け持つクラスでは、レイヤー切り替えができるデジタル地図帳を電子黒板に表示し、その地図に基づいた児童からの意見や感想を黒板にまとめながら授業が進みました。



### 授業準備

準備した資料はデジタル地図帳のレイヤー切り替えを用いて作成した3つの地図。児童が気づいたことや感想を地図の横に記入できるようにしたワークシートを準備。準備時間は20分かかるくらいとのこと。

### 本時の目標

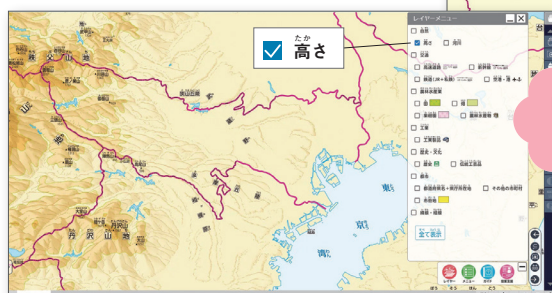
1. 【知識・技能】 東京都の地形について、土地の高さに着目することで、山地の広がる西側から東側に行くにつれて土地の高さが低くなっていることを理解できる。
2. 【思考・判断・表現】 東京都の土地の高さの資料と市街地の資料を比較することで、土地の高さと人々の生活との関連について考え、表現することができる。

レイヤー  
切り替え

『楽しく学ぶ小学生の地図帳』  
p.65～66 ①関東地方南部

### 土地の高さ

B 高さを表示



レイヤー切り替えで地図に色が  
付いたとたん児童から歓声が

比較

A レイヤーメニューで  
何も選択していない状態

### 土地利用

C 市街地を表示



## 授業の主な流れ

東京都の様子について、電子黒板やiPad上でレイヤー切り替えを用いた地図を比較しながら、分かったことや考えたことを共有。



### 1 前時の振り返り

第1、2時で調べた東京都の位置、知っていることなどについて、クラス全体で振り返りました。児童からは、「大都会」「渋谷」などの言葉が活発に出てきました。

### 2 デジタル地図帳を表示

電子黒板に地図帳 p.65～66を表示し、**A** レイヤーメニューで何も選択していない状態、**B** 土地の高さ、**C** 市街地を表示した地図をレイヤー切り替えで順次映し、それぞれの地図から読み取れることを児童と一緒に確認しました。

### 3 個別に分かったことをまとめる

3つの地図が比較できるよう作られたワークシートを、児童のiPadに配信しました。

児童は、**2**で確認したことをもとに3つの地図を比較し、東京都がどのようなところかを読み取りました。そこから分かったことや考えたことを、iPad上のワークシートに自由に記入しました。

### 4 クラス全体で意見や考えを共有

意見や考えをまとめ終えた児童は、指名されると前に出てきて、電子黒板に映した地図で場所を指さしたり、電子ペンで書き込んだりしながら意見を述べました。前の児童が発言した内容を補足しながら進み学びが深まっていきました。

最後に、自分が本時で考えたことを振り返り、ワークシートに学習の感想を書き込みました。

## 児童の様子

iPadを閉じて先生の話に集中して聞く姿、元気に手を上げて発言する姿、友達と話しながらiPadでまとめていく姿、それぞれに生き生きとした表情で主体性が感じられる。

児童は、真剣な表情で先生が示す地図を見ていました。



デジタル地図帳と紙の地図帳を見比べ、児童同士が主体的に話し合う場面も。



先生のiPadでは、クラス全員の作業状況が確認できます。先生は作業の進んでいない児童に声をかけて対応していました。

## 授業を終えた先生に感想を聞きました

社会科は、中学年の間に資料をきちんと読み解ける力を育み、学習内容が自分たちの生活といかにつながっているかを気づくようになることが大事だと思います。でも、授業中子どもの興味・関心は多岐にわたって広がっていくので、先生としては必要なものだけに気づいてほしいですね。今回、授業で子どもたちが東京都の西側が高いこと、雲取山の標高の数字にまで気づけたのは、レイヤー切り替えを使うことで地図の情報を絞って取り上げられたからだと思います。先生側の意図したことが子どもに伝わりやすいという点で、デジタル地図帳のレイヤー切り替えは魅力だと思いました。今日のような学習の積み重ねが、地図活用能力を育てることにつながります。3、4年生の間に、資料をいかに読み取れるかの素地を育てておくことが、5、6年生になって生きてくるのだと思います。授業でもデジタル地図帳を映しレイヤーを切り替えたところで、子どもたちから歓声が起こりました。子どもたちは「次はどうなっていくのだろう」と興味・関心を持って、学習に向かっていきます。その子どもの興味に寄り添いながら、だんだん複雑な地図を扱うようになって、地図は楽しいって興味を持って取り組んでくれたらいいですね。



澤口 舜 先生  
成城学園初等学校